

世界遺産・八幡のひみつを探る

—製鐵所・産業遺産から工場夜景まで—

期間 28年 11月16日(水)~12月21日(水) [全5回]

応募締切

11月2日(水)

実施場所 九州国際大学地域連携センター(サテライト・キャンパス)
〒806-0021 八幡西区黒崎3-15-3 コムシティ2階(42ページ地図参照)

申込・問合せ先 九州国際大学地域連携センター
〒806-0021 八幡西区黒崎3-15-3 TEL: 631-2203 FAX: 631-2204

時間 19:00~21:00

定員 30名

受講料 4,000円

講座概要

実施機関：九州国際大学地域連携センター

昨年「明治日本の産業革命遺産」における構成資産のひとつとして八幡製鐵所関連遺産がUNESCO世界文化遺産に登録されました。製鐵所が八幡に出来た経緯として、教科書にも採り上げられている殖産興業といった政府主導の産業立国政策の意味合いもありますが、世界全体の中での産業革命と製鉄業を取り巻く各種の革新的な変化も背景にありました。さらにはそのような流れのもと八幡に誘致された製鐵所がかつての農村地帯を劇的に変えていった事実も同時に存在します。

本講座では、八幡という地域が持つ多様性について、世界文化遺産登録をきっかけにして多くの方々に知ってもらおうという趣旨のもと、まちを様々な視点から紹介していきます。

月 日	テーマ・内容	担当講師
11月16日 (水)	世界の中の八幡、北九州の中の八幡 産業革命の期間形成されたヨーロッパの各種産業と比較した八幡の魅力と北九州市内における都市機能の分化、各地域の違いや共通点を紹介します。	九州国際大学 非常勤講師 九州大学百年史編集室 助教 市原 猛志
11月30日 (水)	八幡製鐵所の創立 八幡への立地・誘致、日清戦争の賠償金、初期の操業の「失敗」などなど、これまでの「俗説」の検討を中心に、創立期の歴史を考えます。	九州国際大学 特任教授 清水 憲一
12月7日 (水)	世界遺産としての製鐵所の価値 4構成資産について、建造物としての価値とその歴史的意義について考えます。また、1910年で区切られた意味を、製鐵所について検討します。	
12月14日 (水)	八幡の都市計画 製鐵所が行った社宅建設事業と製鐵所のインフラ整備、八幡市が大正期以降行ってきた都市計画事業について、その変遷の歴史を解説します。	九州国際大学 非常勤講師 九州大学百年史編集室 助教
12月21日 (水)	これからの「我が故郷八幡」 工場夜景ツアーの経緯と産業観光の流れ、世界文化遺産登録以降の地域の変化について、登録に至った経緯を含め解説します。	市原 猛志